

第1回「高効率な石油精製技術の基礎となる石油の構造分析・反応解析等に
係る研究開発委託・補助事業」
終了時評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 2021年11月19日（金） 10:00～12:00

2. 場 所 オンライン

3. 出席者

（検討会委員）〔敬称略・五十音順、※は座長〕

※小野崎 正樹	エネルギー総合工学研究所 研究顧問
関根 泰	早稲田大学理工学術院先進理工学部応用化学科 教授
巽 孝夫	I N P E X テクニカルコンサルタント
室井 高城	アイシーラボ 代表

（研究開発実施者）（研究開発実施者は、メインテーブルのみ記載）

秋本 淳	石油エネルギー技術センター技術企画部長
加藤 洋	石油エネルギー技術センター
中村 博幸	石油エネルギー技術センター
田中 隆三	出光興産株式会社 生産技術センター
松下 康一	ENEOS 株式会社 中央技術研究所 燃料・化学品研究所
森 裕貴	ENEOS 株式会社 中央技術研究所 燃料・化学品研究所

（事務局）

資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油精製備蓄課
課長補佐 佐々木 文人
係長 吉澤 志穂

（評価推進部署）

産業技術環境局 研究開発課 技術評価室
技術評価係長 浅野 常一
技術評価専門職員 渡辺 智

4. 議事概要

（1）開会

委員の互選によって、小野崎委員が本検討会の座長に選出された。

(2) 研究開発評価に係る委員会等の公開について

事務局から、「資料2 研究開発評価に係る委員会等の公開について」により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配布資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

(3) 評価の方法等について

評価推進課から「資料3 経済産業省における研究開発評価について」により、事務局から「資料4 評価方法(案)」、「資料5 評価コメント及び評点票」、「資料6 技術評価報告書の構成(案)」により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・ 質問についてはPJ全体なのか、個別なのか
→PJについては全体を評価していただく形となっている。

(4) 事業の概要について

事務局及び実施者から、「資料8 補足説明資料」、「資料7 評価用資料」により、高効率な石油精製技術の基礎となる石油の構造分析・反応解析等に係る研究開発委託・補助事業の概要について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・ 技術開発の連携と競合について、委員から質問があり、研究開発実施者から本技術については日本が進んでおり、海外からも注目されているが、特許戦略から技術を保護していくとの回答があった。
- ・ 知的財産については、展開・保護のため JPEC や民間 2 社との間でガイドラインを作成するべきであるという意見を踏まえ、検討することになった。
- ・ 本研究の目的について、委員から質問があり、研究開発実施者から目的の根本は原油の多角化というところにあるが、今回の技術開発によって、国内の重質油だけでなく、中東の原油に対しての分解についても可能性があるとの回答があった。
- ・ 委託事業の研究開発結果について、非在来原油精製の目標値 21 件に対して委員から質問があり、研究開発実施者から原油調達の難しさを含めての分析であり、また、重質原油と軽質原油の組み合わせ目標値 15 件についてもさらに発展させることができる技術であるとの回答があった。
- ・ 委員から、カーボンニュートラルを踏まえた将来・今後の方向性に対する事業者の考えについて質問があり、研究開発実施者から、製油所が CR のためのハブのような機能を持つことが考えられ、その中に今回の技術を適用させていきたいとの回答があった。事務局からも、エネルギー基本計画でも精製プロセスの脱炭素化を推進することとしており、本事業や後継事業はこれに沿っており、有意義である旨、回答した。

(5) 閉会

「資料5 評価コメント票」の提出期限を令和3年12月3日とすることを確認した。
また、第2回評価検討会の開催は1月を想定しており、開催方法については小野崎座長に相談のうえ決定するということを説明した。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油精製備蓄課

電話：03-3501-1993

担当：佐々木、吉澤